

施工パッケージ型積算方式の移行完了について

(研究期間：平成21～28年度)



社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室
 主任研究官 杉谷 康弘 研究官 吉田 武教
 交流研究員 於本 正樹 交流研究員 竹屋 宏樹 室長 古本 一司

(キーワード) 施工パッケージ、積算

1. 施工パッケージ型積算方式とは

施工パッケージ型積算方式は、積算価格の透明性向上及び積算業務の効率化を目的にユニットプライス型積算方式を改良して開発したものである。本方式では、条件区分毎に定めた標準単価を統一の補正式で補正して、積算単価を算出する。本方式では、全ての工種で統一したフォーマットの標準単価と補正式で計算できるため、非常に簡単明瞭な方式となっている。

2. 移行完了までの推移

歩掛方式から施工パッケージ型積算方式への移行推移を図-1に示す。2012年10月に63パッケージから開始し（85歩掛を廃止）、2016年10月に計画していた合計403パッケージの導入（合計428歩掛を廃止）を完了させた。これにより、積算に使用される割合では、65%が施工パッケージ型積算方式で積算されることとなった。なお、歩掛の性質により施工パッケージ型積算方式が適切でないものは歩掛のまま残すことにしている。

3. 導入の効果及び課題への対応

2016年上半期に実施した導入効果に関するアンケート結果の一部を図-2に示す。受注者からは57%の方から透明性が高まったとの回答があった。また、発注者からは、35%の方から積算がやりやすくなったとの回答があった。これらの結果から、想定した効果が出ているものと考えている。

一方で、歩掛がなくなったことで、機労材の投入量（例えば、材料のロス率。）がわからなくなったとの意見や、見積りが増えた等との意見があり、そうした意見に対しては記載内容の充実や標準単価の区分を新たに設定するなどの対応を行った。

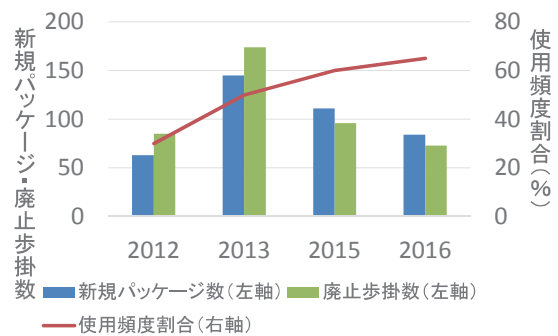


図-1 施工パッケージ型積算方式への移行推移

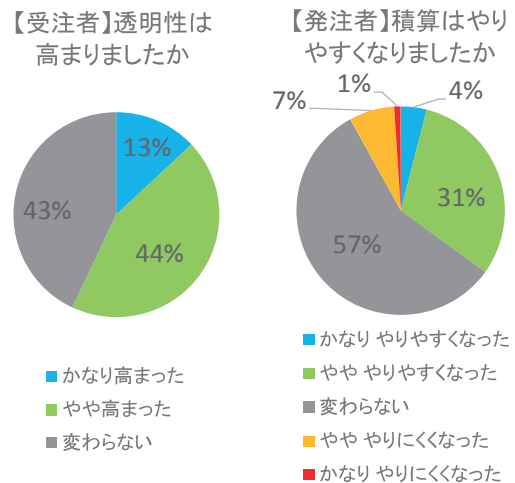


図-2 導入効果に関するアンケート結果

4. おわりに

現在設定している標準単価の数は1万1千個以上有り、今後は、これらが実勢価格と乖離しないように適時見直しを行っていく必要がある。そのため、膨大な数の標準単価と実勢価格の関係について、効率的にモニタリングする手法が必要であり、現在その手法について検討を進めているところである。

☞ 詳細情報はこちら

http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm